

昭和43年2月

平城宮発掘調査出土木簡概報
(五)

奈良国立文化財研究所

この概報は、さきに公刊した「平城宮発掘調査出土木簡概報(四)」(昭和四年三月)以後、平城宮の発掘調査で出土した木簡について、その主要なものを収録した。これらの木簡は、第39、40、41次の各調査地区から出土したもので、総点数は~~25~~余点である。ただし、第40次発掘調査(MAD-B区、第二次内裏外部の東方)で、井戸SES886の掘方および埋土から2点の木簡が発見されたが、断片、削屑のため本概報には収録しなかった。

以下、木簡出土の地点と状況および形態分類を述べ、本文を掲げる。

一 木簡出土の地点と状況

第39次調査(MAG-KA区)昭和四年三月同日、26

この調査は、第39次調査を実施した東面南門推定地の東に接する地域でおこなった。その結果、宮の東限を劃する東一坊大路はこの地域で終って北には延びず、条間大路とL字形に接続する。その接続点に南面する門SB5000があり、これより北では平城宮が東へさらに広がっていたことが判明した。木簡は溝SD4951・SD4999・SD5050・SD5100・SD5200 土塚SK5104・SK5241 SK5008 溝SA5186 柱穴などから出土した。溝SD4951は

南半は宮の東外隍であり、東一坊大路の西側溝でもある。溝内は四層にわかれて堆積した流砂土中から木簡が出土し、「養老」「神亀」の年紀をもつものがある。

SD5100はSB5000の造営上ともなっておりSD4951を約40mにわたって西に迂回させるために掘られた溝で、さらにそれを修復したのがSD4950である。これらの溝内全体にわたり四層にわかれた堆積土中から木簡が出土している。年紀をもつものとして第2層から「天平勝宝」「天平宝字」、第3層から「神亀」が出ている。

SD4999は二条条間大路の北側溝で、溝底に堆積していた粘重土から木簡が出土した。またこの側溝をや、南にずらして改修し、玉石乱石積み、の側壁をもつSD5200では、石を抜きとり攪乱されているところから木簡が出土している。

SK5104は門SB5000の西南約6mにある長径3mほどの楕円形の土塚で、多重の建築用材の削り屑、椽皮の屑などと共に「作門所」と記された木簡などが出土している。この調査の結果と木簡については、奈良国立文化財研究所年報『1967』で概略を報告した。

第41次調査(MAD-BE・BQ・BR区)昭和四年三月、この調査は、平城宮跡の中央部に推定している第一次内裏・朝堂院

の一部にあたる。調査の結果、内裏と大極殿一部を同時にかきこんだのではないかと推定できる築地回廊と朝堂院一部の間を劃したとみられる柵と築地を検出した。築地回廊は和銅当初に造営されたものだが、朝堂院をかきこむとみられる南側の柵と築地の造営は一時期おくりている。

木簡の出土した遺構をみると、和銅の年紀をもつもの出土した溝のD3765は造営当初の南北にはしる主要排水路で、これを埋めた上に朝堂院一部の築地がつくられていた。東の溝のD3774はこのSD3765にかわる排水路で、平安時代初期まで使用されていた。この排水路には、築地回廊の東南隅から発する暗渠用の木製樋を埋設した溝が三回にわたって造りなおされて、流れこんでいる。第三回目の溝がSD5565である。SD3775では、溝内の堆積土は上下二層にわかれ、木簡は下層ではすくなく、上層ではこの合流点付近とさらに南20mほどのところに多くにまとまって出土した。この排水路の南部では、おそらく第二次朝堂院に発しているとおもわれる東西溝SD5565とSK5490が流入している。聖徳元年の年紀をもつ木簡の出土した土塚SK5535は、SD3775を掘った際に東半部を破壊されており、SD3775以前のものであることがわかる。

二、木簡の形態分類

- 601/型式 矩冊形
- 604/型式 矩冊形で、側面に孔を穿ったもの。
- 609/型式 矩冊形と推定できるもの。
- 602/型式 小型矩形のもの
- 6022/型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。
- 603/型式 長方形の材の両端左右に切りこみをいれたもの。
- 6032/型式 長方形の材の一端の左右に切りこみをいれたもの。
- 6033/型式 長方形の材の一端の左右に切りこみをいれ、他端を尖らせたもの。
- 6039/型式 長方形の材の一端の左右に切りこみがあるが、他端は折損あるいは腐蝕して不明のもの。
- 605/型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。
- 6059/型式 長方形の材の一端が尖って他端の形態が不明のもの。
- 606/型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。
- 6065/型式 ある種の用途をもつと推定される木製品に墨書のあるもので、その用途が判然としないもの。
- 608/型式 折損、腐蝕その他によって原形の判明しないもの。

JR 47 08/ 「大隅國」
JR 47 032 「藤南菜一籠」

6AAG-SD5200

DQ 30 08/ 「鈴口郡」
「高宮郷」

6AAH-SK5241

TK 42 019 「召 王口」
「使頭部首」

6AAG-SK5104

JR 44 011 「務所牒 作門所 厩五人匠丁四 石充彼所」
「少録船達 鈴未呂」 八月廿八日付委文末呂

JR 44 051 「井上佐伯首」
「多」

6AAG-SD4999

GR 34 011 「如吾鳥才謹牒申何」
「申」

GR 40 019 「珀玉五十四顆」

七尺四寸 〇〇〇〇三尺二寸 〇糸白糸

GR 40 081 「三年位子 從位上大嶋」

GR 40 019 「火頭」
「三人火頭」

GR 40 039 「郡八田里禰米六斗」

6AAG-AH-SD5050

TK 47 039 「美作國勝田郡豊田郷中男」

TD 47 037 「松原驛家 同秋」

GAAG·AH-SD4951

JR 46 011 「造宮省並笠朝臣膳夫恐謹」

(表裏全面にわたり 習書あり)

TE 46 019 「便從小子門出入之」

「正六位上行大尉船連松王」

TE 46 019 「野野」

「小子門」

TE 46 081 「内内選書一」

「十月廿八日」

TE 46 019 「北西門請火事」

「丁笠間マ東人」

「合六駄 民麻呂」

「少子マ運知得」

「五年六月十六日 師鏡」

TE 46 011 「主殿寮御炬 車持 女 真木 子 吉末 又吉」

「萬呂 古 溜虫女 多比女 名吉女 六月五日大属衣縫」

「連大床」

JR 46 081 「車持 鴨國嶋 鴨大人」

JS 46 019 「水司人才移真 人行」

「味物」

JB 46 031 「上 米所无状注以解」

「鳥」

JR 46 019 「受 養光」

「養光」

TE 46 011 「板十五枚 黒葛一斤 故如件」

「八」

JC 46 019 「十八村 百廿文」

「歩板止四 銭二千卅六」

JB 46 091 「敵尾連黒磨」
IG 46 081 「從八位下佐伯東」

JQ 46 011 「戸主壬生部猪手年卅五正」
「左手」
「戸主生壬部」

TL 46 019 「左京九條三坊」
「百文右人」

TM 45 065 「大三玉四入豆」
「(関)」
「大三□入豆糠」
「大三□入豆糠」
「大三□入豆糠」
「大三□入豆糠」

「天平五年八月」

「漢天伊國(天)」
「漢天伊國」

TG 46 081 「陸奥国蒙上郡蒙」
「(表裏全面にわたり系偏)」
「草冠の文字習書あり」

TE 46 081 「絶廿返」

JS 46 019 「藍灰」

JS 46 051 「佐波理波」

JR 46 033 「志摩國志摩郡和具郷御調海蒸六斤四月十日」

JS 46 032 「尾張國葉栗郡若栗郷」

「敢石部」

IG 46 032 「尾張國知多郡」

「大」

IG 46 081 「蛭田郷中」

「五戸物マ真呂五斗」

JC 46 081 「美(濃)國(夏夫)郡生部」

「米五斗 養老五」

JC 46 039 「岩狭尾連敷郡木津土師

「養老三年十月十日」

JB 46 039 「丹波国多」

「マ」

TG 46 051 「因幡國喜多郡雜腊一斗五升 養老四年十月」

JB 46 031 「隱岐國周吉郡」
「郷」
「里宗我マ」

JQ 46 031 「湯泉郡井門郡大田里久米大虫」
 JI 46 011 「讃岐國阿夜郡生壬マ伊□二斗」
 JD 46 032 「讃岐國香川郡中満里秦廣嶋□五斗八升」
 JA 46 039 「紀伊國安詳郡吉備郡」
 JB 46 033 「紀伊國伊東郡庸米六斤」
 JS 46 039 「周防國大嶋郡屋代郡」
 JA 46 031 「備後國沼隈郡赤坂郷中男黒葛十斤」
 JB 46 039 「備後國安門」
 II 46 051 「備後國安奈郡」
 JA 46 031 「備後國沼隈郡赤坂郷中男黒葛十斤」
 JB 46 039 「備後國安門」
 II 46 051 「備後國安奈郡」
 JQ 46 039 「播磨國揖保郡」
 TH 46 081 「播磨國揖保郡占上郷□□里□□」
 (家カ)

JQ 46 032 「余戸郡雜魚醋一斗五升」
 TG 46 059 「郡黒目郷□□三斗」
 JS 46 081 「郡千郷大川里」
 JS 46 033 「香□郡和尔部古万呂」
 ID 46 039 「郡都波里庸米」
 JR 46 039 「郡丹志里日下部□手」
 JB 46 032 「郡大□郷□□里」
 IT 46 031 「郡御登壹籠」
 TK 46 039 「郡里鉄十口」
 JS 46 031 「水江軍布十六斤」
 TK 46 051 「郡貽貝酢」
 JB 46 033 「郡御取襲□□」
 JB 46 051 「郡熟鮓」
 (六斤カ)
 (調塩カ)
 (實カ)
 (間カ)
 海マ麻呂養老四年庸塩二付五升
 天平元年十一月十五日

GABE-SD3715

MH 09 019

「衛府移 中衛府 一番正八位下 □ □ □ □」

PC 09 081

「山田マ旅人 大伴 伴小刀良 鷹」

MI 09 091

「(兵カ) □衛府移中衛 □ (科カ)」

□ □ □ □

MI 09 091

「(兵カ) □衛等充行夜使如件」

人 合十

MI 09 011

「請繩参拾了 右為付御馬并夜行馬所請 如件 神護景雲三年四月十七日番長非治續」

□豆

MI 09 081

「仕丁合拾伍人 □ 薪取 □ 乞照此状授徳 □ 勢 □」

PB 09 011

「真龍列 □マ真神 物マ老 阿奈 □ □ □人 合四人」

MH 09 019

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

MM 09 051

「少志 (輔大伴益立) 式部大 □ □ □ □」

(守カ)

遠江介藤井川守

出雲 □ □

内倉介安 □草万呂 美野守石上息 □

(嗣カ) 周方守弓削秋万呂

(人主)

伊賀守伊勢子老

(丹カ)(世カ) 伊与守高 □ 慶 □

(介カ) 下統 眞外 □

栗原王 □

(麻王) 「下野介當 □ □」

(伊波カ)

(右女衛)

(守カ) 「守田マ息万呂 □ □」

(部カ) 左馬司 眞并 □ □ 王

□ □ □ □

能 □ □ □ □

(吉波カ)

(伊波カ)

眞外介 □ □ □ □

右衛士 查備泉

玄番 □ 相模 □ □

(ハ) 「付統日本紀神護景雲三年六月乙巳条により補う」

MI 09 019 「造花所 □□□□ □飯参斗陸井 (請)

六月六日雀部石麻呂

PC 09 019 「厨請飯□□

□□□□ □□□□

MI 09 081 「請食 石寸建万呂 住日朝夕者 (豆)(廿七)

四月廿四□□□□東万呂附

MI 09 019 「請酒壹斗伍升

□□□□□□□□

PD 09 019 「謹辭申請

主税大允松任

PD 09 091 「少□從七上輕部造□□

MI 09 081 野中大成

海部稻□

MI 09 091 「田益豆 凡河内小成

PC 09 091 「氏金麻呂

PD 09 019 「葛木毛人 奏

□□□□ □□□□

PC 09 081 「豆經

柘師

□□□□

PC 09 081 「景雲三年八月三日□□□□

□□□□ □□□□

MI 09 091 「京一條三坊□廿内□ (右)

PD 09 019 「又三 又四 又四 又二 又二 又四 又十一 又十一

又十二 又八 又十

MI 09 011 「謹淨継継人

□□□□□□□□

乃止淨麻呂□ (言)

徳豆徳徳鳳至

MI 09 081 「尾張□ (國)

調處三...

MH 09 038 「進上」(錢々) 一百卅文

「宅万呂」

MI 09 051 「藤甲麻交作鮫」一場

MI 09 051 「薄綴廿七斤五編」

MI 09 051 「蒸鮫壹籠」別卅

MI 09 051 「蠣脂三籠」

MI 09 051 「雜魚楚割」一籠

MI 09 051 「雜魚脂」

MI 09 051 「押年魚上」

MI 09 051 「麻実」

MI 09 032 「伊知比古」

GABE-SD3765

ML 16 039 「一之都未滑」(海)

ML 16 081 「和銅」

GABE-SD5505

MF 07 032 「梅保郡三斗九升」

MG 08 019 「天山可解」進上□□卅九□

勘了

GABE-SD5564

MI 10 051 「熬海鼠」

GABE-SK5535

PE 09 081 「壹毫元年九月」

